

至 自		昭 20	昭 19	年
10 10 10	9 9	8 8	3 3	月
13 11 2	1 6 1	15 9	27 9	日
<p>「ポートワニー」經由入「ソ」 得撫島出発 得撫島第四作業大隊に編入 得撫島において武装解除 得撫島通信所</p> <p>爾後軍司令部と各師団間の通信連絡に任ず 日「ソ」開戦 停戦</p> <p>通信所一干島得撫島、幌筈島、松輪島、択捉島、色丹島</p> <p>軍令陸甲第二八号により第五方面軍固定通信隊臨時編成ならびに復帰下令 北方軍固定通信隊を復帰し第五方面軍固定通信隊編成完結 本部一札幌</p>				<p>第五方面軍固定通信隊略歴 通称号達第一二六一三部隊</p>
				概要
				摘要

昭 20												
9	9	9	8		12	11	9	8	10	9	8	8
29	26	25	24		7	28	2	25	1	26	25	24
<p>幌筵通信所</p> <p>幌筵島磐城において武装解除</p> <p>幌筵島第一七作業大隊に編入</p> <p>同地出発</p> <p>「ポートワニー」經由入「ソ」</p> <p>一部所長以下七名は柏原において武装解除</p> <p>柏原将校作業大隊に編入</p> <p>柏原港出帆</p> <p>「ナホトカ」經由入「ソ」</p> <p>松輪通信所</p> <p>松輪島において武装解除</p> <p>松輪島において第二作業大隊に編入</p> <p>松輪島港出帆</p> <p>「ポートワニー」經由入「ソ」</p>												

昭 昭			昭						
23 22			21						
8	8	8	5	9	9	9	9	9	8
31	27	30	13	1	22	21	19	16	30
真岡港出帆帰還			色丹島発国後島古釜布着		「ポートワニー」經由入「ソ」				
真岡収容所着			色丹島穴澗において武装解除		色丹通信所				
樺太気屯着、伏採、道路作業に従事			雑役に従事		大泊港出帆				
					同地出発、大泊着				
					扱捉島において武装解除				
					扱捉島(中佐莊司清司)作業大隊に編入				
					扱捉島において武装解除				

				昭 20			
11	11	11	8	11	11	11	8
16	13	12	25	16	13	12	21
<p>隊長 少佐 萩原信好</p> <p>「ナホトカ」經由入「ソ」</p> <p>同地出発</p> <p>豊原第五作業大隊に編入</p> <p>豊原において武装解除</p> <p>豊原通信所</p>				<p>「ナホトカ」經由入「ソ」</p> <p>同地出発</p> <p>豊原第五作業大隊に編入</p> <p>気屯において武装解除</p> <p>気屯通信所</p>			

至自 至自		昭 20	年
99 99 9 8		8 8	月
30 29 25 15 15 25		15 9	日
<p>「ポートワニー」經由入「ソ」</p> <p>松輪島出発</p> <p>松輪島第一、第二、第三、第四作業大隊に編入</p> <p>松輪島において武装解除</p> <p>停戦</p> <p>全員同島の守備に任じ戦闘行動なし</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>第四一連隊となる</p> <p>中千島松輪島にいた第四二師団および歩兵第一五八連隊が改編され独立混成</p>		<p>独立混成第四一連隊略歴</p> <p>通称号達第一三六一一部隊</p>	
		<p>隊長 大佐 上田 美憲</p>	
		<p>概要</p>	
		<p>摘要</p>	

1110

昭 20														昭 19	年	独立速射砲第一三中队略歴 通称号 達第一四四〇〇部隊
7	10	9	8	8	7	7	7	7	7	7	6	6	6	月		
27	26	5	15	18	10	8	7	6	4	3	27	25	22	日		
第三小队は色丹島に移駐 択捉島に移駐、陣地構築に従事 小樽港出帆 小樽着 根室出発 根室着 函館出発 函館港着 青森港上陸、同日青森港出帆 下関港上陸、同日下関出発 釜山着、同日釜山港出帆 孫呉出発 黒河省孫呉において編成完結														動員下令	略	
														歴		
														摘要		

							昭 20
							8
							30
							天寧飛行場において武装解除
							択捉島庄司清司作業大隊に編入
							天寧出發
							大泊經由「ポートワニー」着入「ソ」
							色丹島の第三小队は色丹島第一作業大隊に編入
							色丹島出發
							「ソフガワニー」港上陸 入「ソ」
							中隊長
							大尉 田中正夫

昭										昭	年	月	日	独立機関銃第六大隊略歴	
20										19					
9	8	8	8	4		8	8	8	7	7					
11	30	15	9			27	26	20	31	21					
<p>通称号 達第一七四〇六部隊</p> <p>略</p> <p>歴</p> <p>摘要</p> <p>軍令陸甲第九一号により編成下令 旭川北部第三部隊において編成完結 旭川出發、根室着 根室港出帆 択捉島天寧上陸 本部、第一中隊は天寧、第二中隊は留茶留、第三中隊は豊浜に駐屯、同日より同島警備 第二中隊天寧に移動 爾後各中隊は駐屯地において陣地構築に従事 日「ソ」開戦 停戦 択捉島天寧飛行場において武装解除 一部現地召集解除 主力は択捉島第二作業大隊に編入</p>															

1111の2

			昭
			20
		9 9 9	
		16 14 13	
		「ポートワニー」經由入「ソ」	天寧にて乗船
	隊長	天寧出港	
	少佐		
	庭山		
	三雄		

1031

						昭 20	年		
						7	月		
						16	日		
		10	10	8	8	8			
		19	8	28	21	9			
<p>独立重砲兵第七中隊略歴</p> <p>通称号 達第二八八〇〇部隊</p> <p>略 歴</p> <p>第九一師団第二砲兵隊の第三中隊がそのまま改称し独立部隊となつたものである 北海道転進のため幌筵島磐城に集結、待期中 日「ソ」開戦 幌筵島磐城において武装解除 幌筵島第一八作業大隊に編入 幌筵島柏原出発 「ニコライエフスク」着 入「ソ」</p> <p>中隊長 中尉 角田光雄</p> <p>摘要</p>									

昭 20	年	独立重砲兵第八中队略歴
7	月	
16	日	
10	10	通称号 達第二八八〇一部隊 第九一師団第二砲兵隊の第四中队がそのまま改称し独立部隊となつたものである 北海道転進のため幌筵島柏原に集結、待期中 日「ソ」開戦 停戦 主力は幌筵島磐城において武装解除 幌筵島第一八作業大隊に編入 幌筵島柏原出發 「ニコライエフスク」着入「ソ」 中隊長 中尉 桑田 孝
8	8	
8	8	
19	8	略
		歴
		摘要

至 自		昭 20		昭 17		昭 16		年 月 日						
10	9	8	8	8	8	7	7	6	6	6	8	7		
20	9	25	15	25	15	9	初旬	8	15	11	10	1	16	
<p> 特臨編第三号により編成下令 旭川において編成完結 移駐のため旭川出発 稚内港出帆、同日大泊上陸 敷香着 敷香出発、同日上敷香着 豊原に移動 日「ソ」開戦 停戦、豊原に集結 豊原において武装解除 豊原、大泊間の疎開邦人輸送 豊原出発、同日大谷収容所に収容 豊原第五三二作業大隊（少佐東島時松）に編入 </p>														
										概		要		
										摘		要		

独立自動車第二九三中隊略歴

通称号達第二二九三部隊

	10
	21
	大泊港出帆
	中隊長
	中尉
	箱崎英雄

昭 20		昭 19		年
8	8	3	2	月
15	9	7	27	日
<p>第五方面軍司令部の一部略歴</p> <p>通称号達第八一五〇部隊</p>				<p>概要</p>
<p>軍令陸甲第二二号により第五方面軍司令部臨時編成ならびに北方軍司令部復帰 下令 札幌において編成ならびに復帰完結 一部を樺太豊原付近、千島占守島、択捉島、国後島、色丹島、得撫島、松輪島 等において現地部隊の築城作業指導ならびに援助のため派遣 日「ソ」開戦 停戦 爾後現地所在部隊と同行動</p> <p style="text-align: right;">司令官 中将 樋口 季一郎</p>				

昭										昭	年	野 戦 機 関 砲 第 六 二 中 隊 略 歴	
20										19			月
9	8	6	6	6	8	8	7	7	7	日			
7	18	22	12	10	11	7	26	23	10		略	通称号 達第一二四三二部隊	
<p>復員完結</p> <p>軍令陸甲第一一六号により復員下令</p> <p>同日より同地付近の防衛</p> <p>宗谷郡稚内着</p> <p>北海道網走港上陸</p> <p>守備地変更のため得撫島出發</p> <p>同日より同島付近警備</p> <p>得撫島上陸</p> <p>根室港出帆</p> <p>和歌山県加太出發</p> <p>和歌山県加太において編成完結</p> <p>軍令陸甲第八〇号により編成下令</p>										略	歴		
<p>中隊長</p> <p>中尉 川崎義夫</p>											摘要		

1119

					昭 20	年 月 日	第七八独立通信作業隊略歴 通称号 達第二八七七八部隊
					6		
	10	10	10	8	8	6	略歴
	28	20	5	23	15		
<p>豊原において編成され爾後ケーブル線埋設、電話配線、無線工事業に従事 樺太大泊港荷役中停線 大泊において武装解除 大泊第五作業大隊に編入 大泊港出発 「ポートワニー」着入「ソ」</p> <p>隊長 中尉 伊藤 晃</p>							
							摘要

1038